

自 然 再 生 事 業 実 施 計 画 の 作 成 に つ い て

資料－2－2

- 実施者（荒川上流河川事務所）が、概ね下記の検討項目について検討し、実施計画（案）を作成する。
- 実施計画（案）は随時、自然再生協議会において協議しながら作成する。
- 工事実施に向けての試験施工等を予定する施策については、平成20年度早期に検討を行い、試験施工等を実施する。

		実 施 計 画 の 検 討				今後の工事実施に向けての試験施工等		
		施策と主な検討項目			課題等		自然再生地管理	
当面の実施計画	止水環境の保全	●保全目標の検討		・現況の止水環境で保全すべき良好なハビタットや目標とすべき指標種について検討する。	◆外来種対策(水生生物)		■保全対象種の移植・再生実験	
		●保全対象範囲の検討		・貴重種の分布、土地利用、地形から保全すべき範囲を検討する。	◆貴重種にはエキサイゼリなど、保全・移植・再生方法の知見が少ない種がある。			
		●保全・移植・再生方法の検討		・保全対象種等を保全する方法として、回避、移植、再生等の方法を検討する。				
		●水域保全対策の検討		・現況の止水環境の水域を保全するため、水確保方法、地下水位の維持方法について検討する。				
	湿地環境の拡大	●創出する湿地目標の検討		・創出する湿地について、目標とする姿(成立する植物群落)を検討する。	◆現況では湿性植物は旧流 路付近及び右岸堤防側に分布しており、旧流路と荒川本川の間の分布は少ない。		■湿地の試験掘削	
		●湿地創出範囲の検討		・湿地環境を創出するエリアについて、現状の利用状況及び地下水位変動状況を踏まえ、検討する。	◆上池は平常時の水供給が無いため、湿潤状態が安定していない。			
		●湿地創出方法の検討		・湿地の縦横断形状、起伏の幅(±〇cm)、アンジェレーションの方針について検討する。 ・各池の接続、各湿地の接続、旧流路との接続の方針について検討する。 ・湿地環境を安定化させるため、出水時の水の流入頻度を上げる望ましい上池呑口高を検討する。	◆掘削による地下水位の変化と、生物・生態系に及ぼす影響については、十分な知見が得られていない。 ◆外来種対策(植物)			
	河 保 畔 全 林 の	●既存樹林の保全対象の選定		・保全対象とする樹木種、範囲、樹齢について検討する。	◆外来種対策		■河畔林の保全管理	
		●保全管理方法の検討		・保全方針、伐採時期、下草の刈り取りなどの管理方法について検討する。				
	ハ ン ノ キ 林 の 保 全 ・ 再 生	●既存ハンノキ林の保全管理方法の検討		・既存のハンノキ林について、間引きする樹木の選定方法及び人的な影響(不法投棄されたゴミの除去、立入の制限等)への対応方針を検討する。	◆外来種対策		■既存ハンノキ林の保全管理	
		●ハンノキ再生計画の検討		・ハンノキ更新サイトについて、エリアごとの更新方法、人為的なハンノキ発芽・移植方法、生育する湿性地の創出方法を検討する。	◆ハンノキの発芽条件、移植方法の知見が少ない			

	実 施 計 画 の 検 討				今後の工事実施に向けての試験施工等 自然再生地管理
	施策と主な検討項目		課題等		
当面の実施計画	維持管理	●維持管理基本方針の検討	・自然再生事業を推進する上で必要となる維持管理項目を抽出する。(不法投棄、外来種対策、良好な環境を保つための除草などが想定される)	◆外来種対策	■除草等維持管理
		●維持管理の対象範囲、内容の検討	・維持管理項目ごとの対象範囲、内容を検討する。 (外来種対策の方法、不法投棄防止対策など)	◆不法投棄対策	
		●役割分担	・維持管理について、市民、NPO、自治体、国交省の役割分担を検討する。	◆市民との協働	
	モニタリング	●モニタリングの基本方針の検討	・太郎右衛門地区におけるモニタリングのあり方について検討する。 ・モニタリング結果の維持管理や整備への反映プロセスについて検討する。	◆市民との協働	■モニタリング調査(継続)
		●モニタリングの対象・範囲の検討	・整備内容及び維持管理内容を踏まえ、モニタリング指標(物理環境と生物環境)、範囲及び調査方法について検討する。		
		●予測評価方法の検討	・予測方法とわかりやすい評価基準、公表方法・表現について検討する。		
		●役割分担	・モニタリングについて、市民、NPO、自治体、国交省の役割分担を検討する。 ・専門家と市民によるモニタリングの考え方について検討する。		
	利活用・環境学習	●利活用基本方針の検討	・太郎右衛門地区における利活用のあり方・人とのかかわり方、環境学習の目的について検討する。	◆市民との協働 ◆地元の生活環境への配慮	
		●施設計画の検討	・利活用メニュー、利活用ゾーニング及び動線の検討を行う。 ・ハード面の整備として、必要な機能と施設、施設配置について検討する。 ・ソフト面の取り組みとして、広報、イベント、学校との連携による環境学習の実施について検討する。		
		●役割分担	・利活用及び環境学習について、市民、NPO、自治体、国交省の役割分担を検討する。		

	実 施 計 画 の 検 討				今後の工事実施に向けての試験施工等 自然再生地管理
	施策と主な検討項目		課題等		
次期実施計画	流水環境の創出	●水源の検討 ●取水方法の検討	・水源を荒川、市野川と想定し、その取水位置、取水方法を含めた検討を行う。	◆水源として想定されている荒川及び市野川の水位は旧流路の水面より低い。	
		●取水量の検討	・水源となる河川の流量等を踏まえて取水量を検討する。		
		●流水路形状の検討	・流水路のルート、横断形状、勾配等について検討する。		
		●他への影響の検討	・水源となる河川の流量、既存の施設、水域の連続性等、他への影響及びその対策方法も含め検討を行う。	◆市野川の水質は荒川や旧流路に比べ悪い。	